

和訳

2021年7月18日

H.E. Mr. Tian Xuejun
Chairperson
UNESCO World Heritage Committee
7, Place de Fontenoy
75352 Paris CEDEX 07
France

田学军委員長

私たち、地域住民グループ、NGO、そして市民社会団体は、第44回ユネスコ世界遺産委員会会議の開催にお祝いを申しあげます。会議が成功することを希望しております。また私たちは、ユネスコ IUCN 世界遺産プログラムによる「沖縄島北部」の世界自然遺産への登録勧告に対する私たちの懸念について、ユネスコ世界遺産委員会に関心を向けて頂きたいと思っています

私たちは、IUCN 世界遺産プログラムによる、奄美大島、徳之島、西表島、沖縄島北部の世界自然遺産登録勧告を歓迎しています。また、IUCN 世界遺産プログラムと日本の環境省が、候補地に隣接する米軍北部訓練場に関する私たちの懸念について、推薦の手続きの過程で考慮してくれたことに感謝しています。特に同プログラムと環境省の努力によって、米軍から世界遺産推薦への協力合意を取り付けられたこと、そして米軍が協力の意思を示していることを高く評価しています。私たちは、44回ユネスコ世界遺産委員会の会議で、沖縄島北部と他の3地域が世界遺産として登録されることを望んでいます。

しかし私たちは、IUCN 世界遺産プログラムの *IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021* において、米軍北部訓練場の問題と遺産候補地に組み込まれた「返還地」の問題が、もっと明確に言及されるべきであったと考えます。北部訓練場と返還地の実態を踏まえれば、今回の IUCN 世界遺産プログラムの評価と勧告の文言では、問題解決の効果は望めません。

沖縄島北部をユネスコ世界遺産に値するものにするため、そしてユネスコ世界遺産制度のインテグリティを維持していくため、私たちは、ユネスコ世界遺産委員会が、以下で示す北部訓練場と返還地の問題を認識し、その問題の解決を促す文言を遺産登録文書に取り入れることを強く要望いたします。

敬意をこめて

連絡先
Okinawa Environmental Justice Project
代表
吉川秀樹
yhidekiy@gmail.com

1. Okinawa Environmental Justice Project
2. The Informed-Public Project
インフォームドパブリックプロジェクト
3. AKAY Japan
「フィリピンAKAYプロジェクトをともに創る会」
4. All Japan Dockworkers' Union (JDU) Kansai Regional Osaka Branch
日本港湾労働組合関西地方大阪支部
5. All Okinawa Council for Human Rights
沖縄国際人権研究会
6. Association of Nightingales, Medical Professionals, and Students for the Protection of Life
いのちを守るナイチンゲールと医療者と卵の会
7. Civil Action That Connects Okinawa and Fukuoka
沖縄とむすぶ市民行動・福岡
8. Diving Team Rainbow
ダイビングチーム・レインボウ
9. Friends of the Earth Japan
国際環境 NGO FoE Japan
10. Fukuoka・Women Against War
福岡・戦争に反対する女たち
11. Gangjeong Peace Network
12. Inter-Island Solidarity for Peace of the Sea Jeju Committee
13. Japan Environmental Lawyers for Future (JELF)
一般社団法人 JELF(日本環境法律家連盟)
14. Japan International Volunteer Center (JVC)
認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター (JVC)
15. Jyugon no Sato
じゅごんの里
16. No Helipad Takae Resident Society
「ヘリパッドいらない」住民の会
17. No Nukes from Shiga
脱原発・滋賀☆アクション
18. NPO JVJV
非営利団体 JVJV
19. NPO Okumagawa Basin Protection Foundation
NPO 奥間川流域ネットワーク
20. Okinawa Citizens Network for Peace
沖縄平和市民連絡協議会
21. Okinawa Environmental Network
沖縄環境ネットワーク
22. Okinawa heno henken wo aoru housou wo yurusanai Shiminyuushi
沖縄への偏見をあおる放送をゆるさない市民有志
23. Okinawa Reefcheck and Research Group
リーフチェック研究会
24. Okinawa Women Act Against Military Violence
基地と軍隊を許さない行動する女たちの会
25. PEACE BOAT
ピースボート

26. Protect Henoko & Takae! NGO Network
辺野古高江を守ろう！NGO ネットワーク
27. Ramsar Network Japan
ラムサール・ネットワーク 日本
28. Save the Dugong Campaign Center
ジュゴン保護キャンペーンセンター
29. Shimagurumi All Okinawa Higashi
島ぐるみ 東
30. Shimagurumi All Okinawa Kunigami
島ぐるみ 国頭
31. Shimagurumi All Okinawa Ogimi
島ぐるみ 大宜味
32. STOP！ Henoko Shinkichikensetsu Osaka Action
Stop！ 辺野古新基地建設！大阪アクション
33. The Association for military base free peaceful Okinawa
基地のない平和で豊かな沖縄をめざす会
34. The House of Nuchi du Takara: Anti-War Peace Museum
わびあいの里 反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」
35. The Okinawa Liberty Project
36. Ukwanshin Kabudan
37. Yuntaku Takae
ゆんたく 高江
38. Women's Active Museum on War and Peace(WAM)
アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」
39. ZENKO, National Assembly for Peace and Democracy
平和と民主主義をめざす全国交歓会

1. 北部訓練場、および候補地に組み込まれた「返還地」について

北部訓練場（あるいはジャングル戦闘訓練センターJungle Warfare Training Center）は、世界遺産候補地である「沖縄島北部」に隣接する米軍の訓練場である。北部訓練場は 3,900ha の面積を有し、それは候補地である「沖縄島北部」（7,700ha）の約半分の広さを持つ。北部訓練場と候補地は長く曲がりくねった境界線を共有している。(Figure 1 を参照)¹

北部訓練場には、固有種であり日本の天然記念物であるヤンバルクイナやノグチゲラを含む約 30 種の絶滅危惧種の動物が生息しているが、そこでは「ジャングル戦闘訓練」やオスプレイ機などによる「地形沿い」低空飛行訓練が行われている。(U.S. Marine Corps Base Camp Smedley D. Butler, MCIPAC Installations Okinawa, Japan 2014).² そして北部訓練場は、沖縄にある他の米軍基地や訓練場と関連する形で使用されている。(Figure 2 を参照)

北部訓練や沖縄にあるその他の米軍基地や訓練場は、日米地位協定のもと、米軍が排他的管理権を持つ³。北部訓練場は、沖縄が米軍の統治下にあった 1957 年にやんばるの森の 7.900ha を接収して出来たものである。

候補地である沖縄島北部は、2.793ha の北部訓練場「返還地」が含まれている。2,793ha の返還地は、2016 年 12 月に米軍が沖縄／日本に返還した 4.000ha の土地の一部である。1957 年から米軍の訓練場として使われていた「返還地」は、「土砂汚染、水質公害、その他、汚染の可能性がある」(p.128)と、日本の環境省は世界遺産推薦書(2019)の中で認めている⁴。

2. 北部訓練場と沖縄島北部の境界の問題

北部訓練場と候補地である沖縄島北部の境界線は地図上示されているが、実際には物理的境界線が存在するわけではない。IUCN 世界遺産プログラムの *The IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021* では⁵、境界線について「米軍のジャングル戦闘訓練センターの細長い一帯が沖縄島北部に入り込んでいるが、候補地には含まれておらず、候補地の形状において変則的存在となっている」(p.7-8)と記載されている。

境界が「入り込んでいる」ことや物理的境界線が存在しないことを踏まえると、北部訓練場で訓練する兵士や候補地への訪問者が偶発的に境界線を越えてしまう可能性がある。北部訓練場では、訓練用弾を使用する射撃訓練を含むジャングル戦闘訓練が行われており⁶、そのような偶発的な境界線越えは何としても避けなければならない。なお訓練場に侵入した者は日本の法律による処罰の対象となる。

NGO は、物理的境界線の設置が非現実的ことを踏まえ、偶発的境界線超えに対応する透明性をもった制度の設置を訴えてきた。しかし *The IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021* ではこの重大な問題に対して言及がない。

3. 訓練による影響の問題

米軍は北部訓練場を使って日夜を問わず訓練を行うが、環境や地域住民への訓練の影響をモニタリングする透明性を持った仕組みはなく、またその影響に対応する透明性を持った軽減の仕組みもない。米国においては、米軍はモニタリングの報告書を市民に公開し、また市民がパブリックコメントを行う機会を提供しているが、沖縄において米軍がそのような報告書を公開したことは殆どなく、パブリックコメントを行う機会も提供されていない。

私たちが特に懸念しているのは MV-22 オsprey やその他の航空機による飛行訓練である⁷。飛行訓練は、北部訓練場内の 20 の着陸帯を使用するが、その多くがやんばるの森のなかで最も環境度の高い場所に建設されている。「地形沿い」低空飛行訓練を含む飛行訓練は、北部訓練場だけではなく候補地上空でも行われる。米軍機は騒音、低周波をまき散らし、「ダウンワッシュ」を起こしている。それらは絶滅危惧種であるノグチゲラやその他の動物そして地域住民に影響を与えている。

NGO が長く主張してきたように、環境や地域住民への訓練の影響をモニタリングする透明性を持った仕組み、またその影響に対応する透明性を持った軽減の仕組みの設置が不可欠である。しかし *The IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021* では、この重大な問題への言及がない。

4. 候補地内「返還地」における米軍の廃棄物の問題

日本の環境省は世界遺産推薦書(2019)で⁸「防衛省が関係法令に基づき（返還地内の）ヘリパッド、道路、ヘリコプターが墜落した場所、その他において、土壤汚染調査や廃棄物処理等をおこなった。その結果、土壤汚染や水質汚濁等がないことを確認した」(p.128)とされていた。しかしその主張が事実ではないことは明らかになっている。

推薦地内の「返還地」の多くの場所において、薬莢、空砲、不発弾、その他の米軍の廃棄物が未だに散乱しており、化学物資による土壤汚染も確認されている⁹。(Figure 1 を参照)

日本政府は米軍廃棄物を撤去しているようだが、その取り組みについて公開していない。この不透明さが沖縄県内外において混乱を引き起こしている。例えば、2021 年 6 月、生物研究者が廃棄物への抗議と廃棄物撤去を求めて、米軍廃棄物を北部訓練場に駐留する米軍に渡そうとしたことで警察により家宅捜査を受けた¹⁰。

NGO が幾度も主張してきたように、日本政府は、米軍廃棄物の撤去や環境の復元計画を十分な予算をつけて確立することが必要である。しかし *The IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021* ではこの重大な問題への言及がない。

¹ Figure 1 was created in 2019 by Naofumi Nakato and Kaoru Urano based upon Akino Miyagi's information on discarded U.S. Military materials including bullet shells, blanks, and unexploded ordinance in the returned land of NTA. The Informed-Public project took the initiative to create Figure 1 and the copyright of Figure 1 belongs to the Informed-Public Project.

² For general description of military training in NTA, see "Chapter 9-Camp Gonsalves/ Jungle Warfare Training Center" in *Final Integrated Natural Resources and Cultural Resources Management Plan* (2014), Marine Corps Base Camp Smedley D. Butler, MCIPAC Installations Okinawa, Japan. For description of MV-22 Osprey Aircraft training in NTA, see *Environmental Review for Basing MV-22 Aircraft at MCAS Futenma and Operating in Japan* (2012), Department of the Navy and the United States Marine Corps and Marine Corps Installation Command Pacific.

³ Article II-I (a) of the Status of Armed Forces Agreement (SOFA) between the U.S. and Japan stipulates that "[t]he United State is granted, under Article VI of the Treaty Mutual Cooperation and Security, the use of facilities and areas in Japan." Article III of SOFA stipulates that "[w]ithin the facilities and areas, the United States may take all the measures necessary for their establishment, operation, safeguarding, and control." <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/usa/sfa/pdfs/fulltext.pdf> (Accessed July 8, 2021)

⁴ The Japanese Ministry of the Environment (2019). *Nomination of Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern Part of Okinawa Island, and Iriomote Island for inscription on the World Heritage List, Government of Japan, January, 2019.* <http://www.env.go.jp/press/files/jp/110737.pdf> (Accessed on July 6, 2021).

⁵ The IUCN World Heritage Programme (2021). *IUCN World Heritage Evaluations 2020 and 2021: IUCN Evaluations of nominations of natural and mixed properties to the World Heritage List.* <https://whc.unesco.org/archive/2021/whc21-44com-8Bin2-en.pdf> (Accessed on July 9, 2021)

⁶ The United State Marine Corps. "Jungle Warfare Training Center, 3rd Marine Division, Camp Gonzalves, Okinawa, Japan." <https://www.3rdmardiv.marines.mil/Units/Jungle-Warfare-Training-Center/> (Accessed on July 7, 2021)

⁷ For description of MV-22 Osprey Aircraft training in NTA, see *Environmental Review for Basing MV-22 Aircraft at MCAS Futenma and Operating in Japan* (2012), Department of the Navy and the United States Marine Corps and Marine Corps Installation Command Pacific.

⁸ The Japanese Ministry of the Environment (2019). *Nomination of Amami-Oshima Island, Tokunoshima Island, Northern Part of Okinawa Island, and Iriomote Island for inscription on the World Heritage List, Government of Japan, January, 2019.* <http://www.env.go.jp/press/files/jp/110737.pdf> (Accessed on July 6, 2021).

⁹ See Akino Miyagi's blog post "LZ2 helipad ato de hajimete kuho yaku 250 patsu wo kakunin kaishu kei 400 patsu wo kaishu [250 bullet shells were found and collected at LZ2 (a former aircraft landing zone) for the first time. In total 400 bullet casings have been collected]" in Japanese.

<https://akinotaiinnorinshitaiken.ti-da.net/e11289236.html> (Accessed on July 7, 2021).

See also "Okinawa police blasted for searching home of researcher exposing U.S. military waste issues." *The Mainichi*, June 15, 2021. (Accessed on July 7, 2021).

See also Yuri Shimizu, "Two years after its return to Japan, the Northern Training Area remains littered with used flares, un-fired bullets, and the remains of pre-war life." *The Ryukyu Shimpo*, December 24, 2018.

<http://english.ryukyushimpo.jp/2018/12/29/29712/> (Accessed July 7, 2021)

¹⁰ "Okinawa police blasted for searching home of researcher exposing U.S. military waste issues." *The Mainichi*, June 15, 2021.

<https://mainichi.jp/english/articles/20210615/p2a/00m/0na/019000c> (Accessed on July 7, 2021).